

2008年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1. キリスト教に基づく人間理解の深化

宗教教育については、長年の実績の積み重ねを踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。また、入学後の保護者に対しても、保護者としてのあり方や学校理解を深める方策を検討していく。

1) 年間聖句 「愛に根ざして真理を語り、キリストに向かって成長していきます。」

(エフェソの信徒への手紙 4章15節)

2) 礼拝

【中学校】 ・火、木は中学1年、中学2年、中学3年合同でチャペル礼拝
・月、水、金はクラス礼拝

【高等学校】 ・月、水、金 高校1年、高校2年、高校3年合同でチャペル礼拝
・火、木はクラス礼拝
・英語科英語礼拝 (年7回) OCCホール
・英語礼拝 (年4回) チャペル
・特別礼拝 音楽礼拝(年3回)、イースター礼拝、母の日礼拝、
花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝、
伝道週間特別礼拝

3) 修養会

- J 1 7月9日(水)～11日(金) 1泊2日 2班 会場 京都・烟河亀岡ハイツ
主題 「心で聴くー大切なあなた、大切なわたし」
講師 梅谷悟先生(加古川バプテスト教会)
- J 2 7月9日(水)～11日(金) 1泊2日 2班 会場 グリーンピア三木
主題 「わたしもまわりも大切にーわたしは有名人・わたしたちの祈り」
講師 谷本仰先生(日本バプテスト連盟南小倉教会牧師)
- J 3 9月5日(水) 会場 学内OCCホール
主題 「Present-マイナスの勝ち～やくにたないものにも価値がある(かな?)～」
講師 牧ローニ先生(聖公会 聖ヨハネ教会員)
- S 1 7月9日(水)～11日(金) 1泊2日 2班 ウェルサンピア滋賀
主題 「一寸っと心を開いてみませんか?ー恥をもちとわなないで」
講師 福井達雨先生・止揚シスターズ(止揚学園)
- S 2 11月14日(金) 会場 学内ホールチャペル
主題 「あなたがたで食べるものを」
講師 清家弘久先生(日本国際飢餓対策機構総主事)
- S 3 7月9日(水)～11日(金) 1泊2日 2班 ユニトピアささやま
主題 「かけがえのない命ー自分を大切に、ひとを大切に」
講師 川上盾先生(日本基督教団東神戸教会牧師)

4) 伝道週間 9月29日(月)～10月5日(日)

主題講演講師 榊原 寛先生

(東京シャロームチャペル、東京恵比寿国際基督教会牧師)

5) 公開クリスマス 12月20日(土) 3回実施

6) 中学校、高等学校 宗教行事感想文集「えのき」発刊

Ⅱ. 教育の内容

1. 学力向上の取り組み

本校における一貫カリキュラムの成果と課題についての検討を更に進め、各教科の学力の向上と定着を図るためのカリキュラムを検討し、それを実現するための時間的確保を行う。

1) 本校における学力の充実を図るために、学力検討委員会(委員10名)を年8回開催し、具体的提案を行った。

- ① 中学学力推移調査、高校スタディーサポートの結果に基づく生徒と担任との面談、生徒説明会のために一部授業カットして実施した。(年2回)
- ② 昨年度に引き続き高校1年に英語、数学、高校2年に英語の土曜講座を実施した。
- ③ S3の模試は学内実施は進研・駿台模試を利用し、データの継続利用をしやすいことにした。
- ④ 生徒の要望を受けて高校社会科のカリキュラム変更、高校英語科の理科のカリキュラムを一部変更を行った。

2) 国際理解教育

・留学生の受け入れ

YFUからの年間留学生 4月から12月まで Reichertz Verena(ドイツ)(S2E)
姉妹校留学 9月から12月まで 3名を受け入れた

Hyo-Eun RY00(S2C)、Hsin-Yu KU0(S2F)、Emma SCHRYVER(S2G)

・YFU等による留学生の派遣

YFUで高校1年1名がオーストラリア、高校2年1名がアメリカ、他の機関を通じて、高校2年1名がアメリカ、高校2年2名がカナダへ留学した。

・オーストラリア姉妹校留学 高校1年1名

・海外夏期研修の実施

昨年度から高校1年で実施することになった。

アメリカボストン 高校1年35名 (7月24日～8月15日)

アメリカモントレール 高校1年30名 (7月25日～8月13日)

ニュージーランドハミルトン高校1年39名 (7月23日～8月14日)

2. 改変した学校行事の円滑な実施

6年間一貫教育の中で、より教育的効果を高める観点から数年間に亘って行ってきた行事全体の精査、運用の見直しは昨年度で終了した。2008年度から、改変した学校行事が円滑に運営され、教育的な効果をもたらされることを検証していった。

教育的効果を高める観点から実施時期を9月から6月に移動させた体育祭も2回目になり、定着した。また中学校3年、高等学校2年の修学旅行とその他の学年の修養会の7月同時実施も円滑に行われた。

3. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育(人権教育)については、「私たちの人権感覚を問い直そう」—一人ひとりを大切にしよう—という教育目標の下で、一人ひとりが大切にされる解放教育を目指し、各学年の成長過程に応じて、生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。また、インターネットの扱いやいじめの問題に対する生徒の問題意識を深める。

- 1) 「私たちの人権感覚を問い直そう—一人ひとりを大切にしよう—」という教育目標の下で、各学年別年間目標をたて、実施した。

○学年毎のテーマ

中学1年「大切なあなた、大切なわたし」

中学2年「平和と戦争について考えよう」

中学3年「Present自立—様々な体験・出会いを通して—」

高校1年「反戦平和、世界の貧困」

高校2年「日本のことをもっと知ろう(真の国際人になるために)」

アイヌの歴史と文化の学習と、障がい者が置かれている現実を知る」

高校3年「共に生きる—世界の中でのわたしたち—」

○中学解放デー 中学1年 リバティ—おおさか見学

中学2年 ピースおおさかと解放LHR

中学3年 車いす体験と障がいのある人とのクラス別の交流

○中学平和を考える日

中学3年生修学旅行平和学習感想文発表と映画「アンゼラスの鐘」

○教職員学習会

①「力ある学校(empowering school)をめざして—教師のチームワークを生かすために—」

梁 醸一さん(YMCA総合教育センター主任)

② 夏期研修会報告(生活指導と共に)

③「結婚差別を考える」

奥田 均さん(近畿大学人権問題研究所教授)

④ 教職員フィールドワーク 「タチソ(高槻地下倉庫跡)」

4. 生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。

特に、基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導する。特に、時間、物の管理、服装身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化等について、周りを配慮して行動できるように指導する。

1) 基本的な生活習慣・社会のルールを身につける指導について

遅刻指導をはじめ、身だしなみの指導、移動教室の施錠確認や授業時間中の巡回、放課後の教室の整理整頓の見回り等、きめ細かな学年の指導により、全般的には落ち着いた生活をしている。また、一部の生徒の登下校時のマナーの悪さに対して一般の方、地域の方から苦情が来ることがあるが、その都度全体に注意をしている。公共のマナー、ルールを自らの意志で守り、周囲に配慮をもって生活していけるよう指導を続けたい。

Ⅲ. 教育の実施体制

1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み

生徒の人数確保を安定的に行っていくための具体的な方策を検討すると共に、受験生の保護者の学校理解を深める。また、中学の入試結果の集計や分析を更に充実させ、次年度の入学予定者の把握に役立たせる。

1) 2008年度在籍者(2008年4月1日現在)

2007年4月1日在籍者数より 9名減 (中学6名減 高校3名減)

2) 2009年度中学入試報告

(1)近畿統一入試の4年目となった今年、短期集中の傾向は昨年よりさらに強まった。その影響は、本校の受験者の動向にも強く現れ、受験者の減、後期入学手続き者の増加となって現れた。

(2)本校は前期1月18日、後期1月20日として実施。

・出願者数について、昨年に比べて3名減 (1045名→1042名)。

・受験者数について、昨年に比べて43名減 (844名→801名)。

特徴として言えることは、

①前期受験は出願者数よりも受験者数の減になっており、A方式(専願)、B方式(併願)とも、実質倍率が低下している。

②後期受験(併願)の出願者は、昨年同様、出願者はさらに増えたが、他校の併願傾向が強まり、第一志望校に合格が決まる割合が増し、受験者はさらに減少した。

(3)合格判定について

・今年度は最終的には6クラス(252名を超えない)入学人数に収まることを前提に、入学手続きの様子を見ながら、前期A方式にて人数確保をする方針とし、追加合格を出すことで入学者を確保する方針を立てた。

- ・前期A方式は2回（計5点下げる）の追加合格を出した。しかし、後期試験の入学手続き者が多く、入学手続き者は293名であった。

(4)入学手続後の辞退について

- ・毎年入学手続後の辞退者数の予想は、困難を極めるが、今年度は、33名の入学辞退者が出た。

(5)結果として、中学1年生は260名の入学者となり、7クラス体制をとることとした。現在の中学3年生はすでに7クラス体制であり、中学旧リーディングルーム、旧多目的室もHR教室として引き続き、使用することとなった。

(6)今年度の後期試験の入学手続き者が多かったのは他校の追加合格が少なかったことがあげられる。後期試験では女学院第2志望以下で手続きをするものが多くあった。

3) 2009年度高校入試報告

今年度の高校入試は7月の大阪府橋本知事による私学経常費補助金、高校10%削減を受け、93校中50校が授業料の値上げを表明する中、実施された。その結果、公立校は多くの受験生を集めたが、大阪の私立高等学校全体では入学者総数(外部進学者)は前年度比5.7%の減少になった。女子校においては前年度比7.6%の減少、男子校で1.8%減、共学校5.6%減であった。今年度の外部募集人員に対する入学者充足率においては、全体では94.8%、女子校で76.5%、男子校で103.4%、共学校で99.7%であった。

本校は外部募集60人に対して前年度比15.5%減の49人が入学した。充足率は81.7%で、定員を満たすことは出来なかった。しかし専願入学者30名に対して、併願入学者は19名で、昨年の13名から増加しており、戻り率は18.1%であった。近年にない不況と経常費補助金削減という状況下、私学の特に女子の専願者獲得は困難であるが、次年度は新たな入試対策室長を中心に併願受験者獲得のため努力をしていきたい。

4) 編转入試験

- ・7月25日(水) 中学1年生転入1名
- ・12月16日(水) (中学編入試験のみ) 受験生なし
- ・3月15日(火) (2008年1学期編入) 中学2年生編入2名, 中学3年生転入1名
高校1年生編入1名
- ・3月24日(火) (2008年1学期転入) 高校1年生編入1名

5) 募集対策

(1)中学校関係

- ・関西日曜教室 5月31日(土) 約112組来校
- ・第1回オープンキャンパス 5月10日(土) 小6 282名 小5 214名参加
- ・第2回オープンキャンパス 6月14(土) 小6 229名 小5 199名参加
- ・第1回中学入試説明会 10月4日(土) 出席602家族・資料のみ請求13部
- ・第2回中学入試説明会 11月15日(土) 出席539家族・資料のみ請求18部
- 1・2回資料配付合計 1172部 (前年1220部)

(2)高校関係

- ・第1回オープンキャンパス 9月13日(土) 中3 74名参加(昨年93名)
- ・第1回高校入試説明会 9月13日(土) 出席(資料配付)77名(昨年64名)

- ・第2回高校入試説明会 11月15日（土）出席（資料配付）130名（昨年123名）
- ・教師対象高校入試説明会 10月17日（金）出席 15名
- ・高校入試進路相談人数 専願 34名 併願 106名 計140名

(3)その他

- ・塾対象入試説明会（中高合同）OCCホールにて
7月14日 179塾 233名出席（昨年172塾215名出席）
- ・塾主催の説明会への積極的参加
- ・DVDの学校案内作成・配布2008年9月1日リニューアル
- ・私学展参加 8月16日（土）～17日（日） OMMビル
- ・大阪私立女子中学校フェア参加 6月22日（土） 御堂会館

2. 中学・高等学校図書館教育の実施体制

1) 図書館の資料を活用する宿題

中学1年生の解放学習、中学2年生の理科、中学生全員の家庭科理科の授業で担当教員と図書館員が選んだ資料を利用する宿題がでた。

2) 図書館の資料を利用する授業

高校2年生「異文化理解」で資料収集のため図書館で授業をおこなった。

3) 図書館アンケートの結果

毎年行っている図書館利用調査で「読む本の選び方」と「一ヶ月に何冊読んだか（漫画や雑誌をのぞく）」の新しい質問をした。読む本の選び方は中学一年生から高校三年生まで書店が一番多かった。また、一ヶ月に何冊読んだかの質問には、中学一年生から高校二年生まで約半分の生徒が1冊から3冊の本を読んでいた。

V. 生徒支援

1. 生徒の自己実現を促す進路指導

進路指導については、在校生が進路選択をするに当たり、自分の将来を設計し、その実現に向けて少しでも近づけるように、指導助言をする。

- ①年間指導計画に基づいて、必要な情報を生徒・保護者に提供し、生徒の進路意識、学習に対するモチベーションの向上を図る。
- ②実力テスト、学力推移調査、スタディーサポート等により、生徒の学力や学習・生活実態を調査、分析し、進路委員会、学力検討委員会が職員会議等に生徒の学力向上の為の方策を提言していく。またこれらの資料を活用して、生徒に対してそれぞれの目標に向け努力ができるよう面談をしていく。
- ③高大連携を促進する。
- ④資料の整備や留学コーナーの設置、進路相談等、進路室利用の活性化を図る。
- ⑤高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成する。

1) 各学年の進路指導実施状況

- 中学2年 進路適性検査(3月)
生徒、保護者進路説明会(3月)
- 中学3年 生徒、保護者進路説明会(6月)

- 生徒対象文系説明会、理系説明会、英語科説明会(4月)
- 高校1年 第1回 進路説明会(進路選択と教科選択)(5月)
 第2回 進路ホームルーム(オープンキャンパス参加準備)(6月)
 第3回 進路ホームルーム(オープンキャンパス報告会)(9月)
 第4回 生徒進路説明会(進路選択と学習)(10月)
 第5回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(3月)
- 高校2年 第1回 進路ホームルーム(学校生活を充実させるために)(4月)
 第2回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と教科選択)(6月)
 第3回 生徒進路説明会(模試データの見方と目標と教科選択)(10月)
 第4回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(2月)
- 高校3年 第1回 進路説明会(調査書について)(4月)
 第2回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と進路全般説明)(4月)
 第3回 生徒進路説明会(センター試験、AO入試、自己推薦入試説明)(6月)
 第4回 生徒進路説明会(推薦入試説明)(9月)
 第5回 生徒進路説明会(センター試験自己採点と小論文説明)(1月)

2) 実力テスト関係

- 中学1年 学力・推移調査(4月)(12月)(3月中学2年生用)
 中学2年 学力推移調査(12月)(3月中学3年生用)
 中学3年 学内実力テスト(4月)(11月)、学力推移調査(12月)
 高校1年 学力・生活分析テスト(4月)(9月)(3月)
 実力テスト(7月)(10月)(1月)
 小論文テスト(6月)(1月)
 高校2年 学力・生活分析テスト(4月)(3月)
 実力テスト(7月)(10月)(1月)
 小論文テスト(6月)(1月)
 高校3年 実力テスト(5月)(6月)(9月)(10月2回)

3) 普通科文系、普通科理系においてそれぞれ高大連携を促進した。

- 文系 神戸女学院大学(人間科学部)、関西学院大学(商学部)、関西大学(法学部)
 理系 大阪大学(理学部生物学科)、神戸薬科大学(薬学部)、理系セミナー 3月

4) 資料の整備、進路室利用の活性化に務めた。

5) 高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成した。

- ・進路先冊子・卒業生からの進路アドバイス冊子配布

6) 進路結果の概要は以下の通りである。

2009年度大学・短大合格者数(現役、過年度生別)

自然科学系統(医療・保健学)医学部 医学科

金沢大学	1
愛知医科大学	1
金沢医科大学	1
兵庫医科大学	1
看護学科	
奈良県立医科大学	1 (1)
保健学科 看護学専攻	
大阪大学	1 (1)

看護学部 看護学科

神戸市看護大学	1
<u>看護リハビリテーション学部</u>	
看護学科	
甲南女子大学	4 (2)

保健看護学部 保健看護学科

和歌山県立医科大学	1 (1)
関西医療大学	1

保健医療学部

理学療法学科	
関西医療大学	2

健康科学部

理学療法学科	
畿央大学	2 (1)

リハビリテーション学部

リハビリテーション学科	
言語聴覚学専攻	
聖隷クリストファー大学	1 (1)
大阪河崎リハビリテーション大学	1 (1)

薬学部 薬学科

京都薬科大学	2 (1)
同志社女子大学	4 (3)
立命館大学	3
大阪大谷大学	2 (1)
大阪薬科大学	8 (4)
摂南大学	1
神戸薬科大学	3 (2)
武庫川女子大学	7 (3)

中薬学部

北京中医薬大学	1 (1)
---------	-------

自然科学系統(理学・工学・農学)理学部

数学学科	
奈良女子大学	1
生物学科	
大阪市立大学	1 (1)
生物科学科	
大阪府立大学	1 (1)

工学部

生命工学科	
富山大学	1 (1)
市民工学科	
神戸大学	1
化学工学科	
大阪府立大学	1
空間デザイン学科	
大阪工業大学	1 (1)
建築・環境デザイン学科	
大阪産業大学	2
情報システム工学科	
近畿大学	1 (1)

情報工学部

生命情報工学科	
九州工業大学	1 (1)

理工学域 環境デザイン学類

金沢大学	1 (1)
生命科学科	
近畿大学	1 (1)
関西学院大学	3 (3)
機械工学科	
立命館大学	1 (1)
生物学科	
甲南大学	1 (1)
化学システム創成工学科	
同志社大学	2
人間システム工学科	
関西学院大学	1 (1)
社会環境工学科	
近畿大学	1 (1)
建築学科	
近畿大学	1 (1)

生物理工学部

生物工学科	
近畿大学	1 (1)

生命医科学部

医生命システム学科	
同志社大学	1

化学生命工学部

生命・生物工学科	
関西大学	4 (4)
化学・物質工学科	
関西大学	1

フロンティアサイエンス学部

生命化学科	
甲南大学	1 (1)

農学部

共生バイオサイエンス学科	
静岡大学	1 (1)
農芸化学科	
明治大学	1
応用生命化学科	
近畿大学	3 (3)
水産学科	
近畿大学	1 (1)

獣医学部 獣医学科

麻布大学	1
酪農学園大学	1

総合・学際系統

(教育学系・家政学系・生活科学系)

学芸学部

食物栄養学科 (管理栄養士専攻)	
大阪樟蔭女子大学	1
食物栄養学科 (食物栄養専攻)	
大阪樟蔭女子大学	1 (1)

家政学部

食物栄養学科	
京都女子大学	1 (1)

生活科学部

食物栄養科学科 (管理栄養士)	
同志社女子大学	3 (3)

生活環境学部

食物栄養学科	
武庫川女子大学	5 (3)
建築学科	
武庫川女子大学	1 (1)

生活科学部

居住環境学科	
大阪市立大学	1 (1)

人間科学部

環境・バイオサイエンス学科	
神戸女学院大学	3 (2)
2009年4月末日現在	
()内は2009年3月卒業生	

2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- ①自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室(学校カウンセラー)と連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- ②授業・学級活動・生徒会活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように、警備・巡回に努める。
- ③学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- ④中学1年、高校3年生の麻疹予防接種の積極的勧奨を行い、本校においても中学1年で88.4%、高校3年で89.2が免疫をもつに至った。

1) 自分自身の心身の健康を保つ (保健室・教育相談室との連携)

- ・不登校・不登校傾向生徒のあり方が多様になっている。保健室・別室・図書館等を利用しながら、学校生活を送る様々な生徒がおり、学年と保健室、教育相談室とが連携をとりながら対応にあたった。また、近年、教育界でいわゆるLD(学習障がい)やADHD(注意欠如・多動性障がい)や高機能広汎性発達障がいの生徒への教育課題が取り上げられ、文科省は2007年に特別支援教育コーディネーターを各校に置くよう通知を出した。本校においても明確に診断されている生徒、可能性がある生徒を含めると中学・高校で5名前後の生徒が在籍し、教育支援を必要とする場合も現れてきた。そのために2008年度には教職員対象の学習会を2回行い、支援教育システムを構築する準備を始めた。
- ・教育相談室での2008年度の生徒・保護者・教師の相談件数は130件、711回であった。

- ・インターネット・メールがらみのトラブルを防止し、保護者の責任を明確にして、学校との連携を図るため、ネット利用のマナーや注意事項をまとめた冊子を新1年生に配布した。中学2年には生活指導学習会として携帯電話やインターネットの問題を取り上げた。
 - ・文科省は2009年1月30日付けで国立・公立・私立を問わず小学生・中学生に対して携帯電話の「学校への持ち込みを原則禁止」を通知した。しかし本校では、中学においては保護者の申し出による「許可制」とし、生徒自らが責任をもって管理できるように指導することとした。高校生は今まで通り、許可制はとらず、自己管理を徹底し、授業中の利用などの違反者に対しては携帯を預かり、保護者に連絡し返却する方法をとっている。
 - ・3月には、2005年度から4年目になるが、中学1年に松原高校「るるくめいと」の講演（性教育の講演）を行った。また中学2、3年生にはDVについての学習会を持った。
- 2) 各学年で、礼拝、授業中の巡回（移動クラスの施錠確認を含む）を当番で行っている。文化祭体育大会においては、不審者対策として、警備所をもうけ、担当の教師・生徒が巡回警備に当たっているが、男子禁制の文化祭の形態もほぼ理解され、円滑に行われるようになった。（文化祭には警備会社からガードマン2名の派遣もある。）
- 3) 学校外での生徒の事故、トラブル
 苦情 数件、学外での被害（痴漢21件、盗撮9件）、交通事故1件
- 4) 生活指導講演会実施実施状況
- | | | |
|----------|------------|--|
| 4月9日（水） | 中学・高校1年生対象 | 鉄道警察隊による「安全教室」 |
| 7月14日（月） | 中学2、3年生対象 | 生活指導学習 |
| | 中学2年 | 「携帯電話やインターネットを、自分を高めるために大切に用い、そして、その道具から自分や友人を守ろう」 |
| | 中学3年 | 「生活実態調査の結果と傾向」 |
| 3月13日（金） | 中学1年生対象 | 松原高校「るるくめいと」による性教育講演 |
| 3月13日（金） | 中学2、3年生対象 | 生活指導講演会 |
| | | 「DV(ドメスティックバイオレンス)について」 |
| | 講師 | ウイメンズ・ネットこうべ |
| | | 吉本弘子先生、植田由紀子先生 |
- 5) 文科省・厚労省は2007年度の全国の大学・高校での麻疹流行を受け、5年間の措置として中学1年、高校3年の麻疹予防接種の積極的勧奨を行い、本校においても積極的勧奨を行い、中学1年で88.4%、高校3年で89.2%が免疫をもつに至った。目標は95%の免疫率である。

3. 中学・高校としての図書館機能の充実

中学校・高等学校の教育・研究・学習を支援するために、資料・情報を収集し、整理、保管、提供を行う。

①蔵書や資料収集の充実

- ・学力低下や様々な背景や多様な要望をもつ生徒に対する教育や指導に必要な資料
- ・教職員の教材研究用の資料
- ・学校行事(遠足、修学旅行、文化祭等)の事前学習や準備に必要な資料
- ・生徒の学習に役立つ資料や生徒の知的好奇心をかきたてる多種多様な資料

②利用教育

資料・情報を使いこなし、自律した社会性をおくるため中学生・高校生の図書館利用教育のスキルアップに努める。

- ・情報の探し方や入手方法をウェブ上・印刷ベースで紹介
- ・図書館を利用した授業の展開が可能であるよう受け入れ態勢の整備

③図書館利用時間の延長の支援

中学生・高校生の完全下校時間までの利用時間の延長
(夏時間は午後6時30分迄、冬時間は午後6時迄)

④その他

すぐれた作品や人物などほんもののもつ力と出会うことは、生徒の貴重な財産となるので、学校が提供するものとは別の角度からオーサービジット(朝日新聞主催の作家と語る企画)に応募する。

1) 高校3年生で協定校に進学が決まった生徒が図書館事業に参加

- ・毎年行っている「夏休み読書感想文コンクール」に24名応募。感想文の審査は高校3年の図書委員を中心に担当してくれた。
- ・3年生の図書委員が協定校受験の準備をかね、図書館の「読書週間」プロジェクトの企画に参加。PR方法や作品のアレンジなど、高校生の利用者の観点からの意見は貴重であった。

4. PTA(へール会)活動について

- ・本部委員会10回、運営委員会8回、聖書を学ぶ集い4回開催
- ・へール会総会 5月19日(月) 参加者368名出席
講師：小坂忠牧師(日本フォースクエア福音教団秋津福音教会牧師)「信じる力」
- ・保護者セミナー 6月21日(土) 保護者199名出席 講師：谷総保先生(臨床心理士)
「親と子の心のキャッチボール”やる気”を育てる関わりをさぐる」
- ・一日親睦会 7月30日(水) 参加者264名出席
出演 戸田佳代さん(マリンバ演奏 本校卒業生)
- ・11月1日(土) 文化祭にて私学助成署名活動と制服リサイクル実施
- ・へール会クリスマス 12月19日(金) 参加者238名出席
- ・大阪私学振興大会 1月26日(月) へール会本部・学年・学級委員参加

VIII. 管理運営

1. 個人情報保護法施行に伴う業務の見直し

個人情報保護法施行に基づき、データ管理の徹底を図るため、教職員の研修と学校運営システムの運用の見直しを引き続き行う。

1) 個人情報保護法施行に伴う社会的な状況に一定の共通した理解と落ち着きがみられ、学校校務の運営システムにおいても特に問題の発生は見られなかった。

2. 担任業務軽減のための学籍管理の見直し

担任業務軽減のための業務の見直しを行い、必要なITシステムの活用を行うと共に成績処理・指導要録・出欠管理・各種証明書の発行等を含む学籍管理システムの整備に努める。また、予測さ

れるカリキュラム変更に対応できる教務システムの変更や現行の教務内規等について、現状に合わせた見直しの検討や改正を引き続き行う。

1) 高校において、成績のコンピューター入力時に、打ち出した成績資料も教務に提出していたが、検討の結果、2009年度からは、打ち出した用紙による提出は不要とすることになった。それにより店提出作業の省力化と、紙資源の削減が可能になる。

3. 2009年度から本格的講習が開始される教師免許状新制の周知につとめた。

1) 文科省は2007年に教育職員免許法の改定を行い、それにより、教員免許状に10年の有効期限を設け、2011年3月31日に35才、45才、55才になる教員から制度が適用されることになり、2009年4月から2年間で30時間の講習を受講しなくなることになった。その講習開始を控え、2008年度は予備講習が各地で実施されたが、その新制度の周知につとめた。

X. 改革・改善

1. 学校6日制実施の決定

1単位に見合う授業時間数とクラブ活動時間の確保等のため、職員会議で昨年度来の検討を重ねた結果、週6日制、50分授業を2009年度より実施することを決定した。

1) 近年、私学課から1単位に見合う授業時間数の確保についての確認通知があり、定期テスト終了後も授業を実施してきたが、それにより諸行事が実施しにくくなってきた。また、ゆとり教育による学力低下が叫ばれ、確かな学力を身につけるための授業時間確保が課題となっていたが、昨年度来の検討の結果、週6日制、50分授業を2009年度より実施することを決定した。週5日制の中では中学においても7時間目まで授業をせざるを得ず、中高一貫教育にも関わらず、クラブ活動がしにくい状況があったが、週6日制実施により、基本的に一日6時間授業となり、クラブ活動がしやすくなる。

2. 学校評価と学力の充実について

文科省から2008年度中の学校評価(自己評価)実施と公表せよとの通知があった。それを受け、学校評価委員会を立ち上げ、教育内容アンケートだけでなく授業評価も実施した。

1) 学校評価委員会が学校目標に基づいた生徒アンケートと教職員アンケートを作成し実施した。その際、本校の課題である学力の充実を期して、全ての教科の全教員についての授業評価を実施した。それらをまとめたものを理事会に報告し、全保護者に公表した。

3. 教職員の人権意識の向上

教職員の人権意識を更に深め、授業やクラブ活動での指導を問わず、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。

1) 教職員学習会

- ① 「力ある学校をめざして－教職員のチームワークを活かすために－」
梁 醸一さん(YMCA総合教育センター主任)
- ② 夏期研修会報告(生活指導と共に)
- ③ 「結婚差別問題を考える」 奥田 均さん(近畿大学人権問題研究所教授)
- ④ 教職員フィールドワーク 「タチソ(高槻地下倉庫跡)」

4. 特別支援教育の取り組みのために

文科省は2007年に特別支援教育コーディネーターを各校に置くよう通知を出した。本校においても発達障がいと明確に診断されている生徒、可能性がある生徒を含めると中学・高校で5名前後の生徒が在籍し、教育支援を必要とする場合も現れてきた。特別支援を行うために教職員が研修を行い、支援教育体制システムを構築する準備を始めた。

1) 12月15日(月) 教職員生活指導教職員研修会

「発達障がいの理解と対応」

講師 谷 均史さん(淀川キリスト教病院医師、

NPO法人特別支援教育ネットワーク「がじゅまる」)

2) 9月7日(金) 夏期研修会報告(解放教育と共に)

4. 中学・高校の図書館活動

- 1) 毎年、エアコンをつけると3ヶ所ほど水もれをして、年間1から2回図書をぬらしていた。配管のミスとわかり修理をした。
- 2) 蔵書点検は、図書館職員と学生アルバイトで行っていた。今年度は、学生アルバイト以外に2日間4名を雇って作業能率をあげた。